広島大学マスターズ講演会
『飯舘村を通して、「フクシマ」を考える』

講　師：川野　徳幸先生　(広島大学平和センター長・教授)

略歴：1966年生まれ。広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了/博士（医学）。広島大学原爆放射線医科学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学研究センター准教授等を経て、2013年から広島大学平和科学研究センター教授。2017年4月より同センター長併任（2018年4月より機能強化のため名称変更）。専門は原爆・被ばく研究、平和学。広島・長崎原爆被害、セミパラチンスク・チェルノブイリの核被害について社会医学的視点から調査研究を行っている。

司　会：松田　治男先生　(広島大学名誉教授・広大マスターズ会員)
日　時：令和元年６月16日(日)　午後1時30分～2時30分
場　所：東広島芸術文化ホールくらら・研修室1+2

講演要旨：

2011年3月の福島第一原発事故から8年が経過した。この時間の経過とともに、「フクシマ」の問題は、人々の記憶の中に閉じ込められようとしている。しかし、廃炉の問題、除染の問題、住民帰還の問題、何れの視点からも解決したわけではない。いや、解決の糸口さえ、提示されていない。本講演では、放射線、そのリスク、住民の被ばく線量、避難指示区域の再編、除染などの問題を通し、「フクシマ」の今、そして今後の課題などをお話ししたい。住民の立場に立った復興のあり方を聴衆の皆さんと一緒に考えたい。

主　催：広島大学マスターズ　　共　催：広大マスターズ友の会

(問)広島大学マスターズ(渡部)　電話090-2290-2495　メールkazuwp@hiroshima-u.ac.jp